

## 未利用地の資源林化プラン

昨年は北部九州豪雨、今年も同じようなゲリラ型の集中豪雨が島根県等を襲いました。また、竜巻も、千葉県と埼玉県境で、また栃木県でも発生、多くの被害をもたらしました。また 7 月は、逆に猛暑が続き、雨量は平年の 10%にも届かない地域がひろがりました。異常気象はいずれも地球温暖化のせいと考えられています。このようなことから、災害外力が年々強度を増してきている、災害対応の常識は通用しなくなって来つつある、と言えると思います。

CO<sub>2</sub> は、海水と大気の間でやり取りし、CO<sub>2</sub> が増えれば海が吸収するというメカニズムで微妙な均衡を保っているのですが、それは、数万年といったタイムスケールでのことで、ここ 200 余年の、産業革命以降の石炭石油を用いはじめてからの短期の上昇を吸収することはできないのです。したがって、化石燃料依存の文明を続ける限り、今しばらくは、CO<sub>2</sub> 濃度は上昇することを覚悟しなければなりません。九州は単に熱帯化するだけでなく、凶暴化した気象下での熱帯になるのです。

災害外力は強大化し、反面、高齢化及びインフラの老化の両面から総合的に、地域の防災力は低下します。この問題はもちろん認識されていますから、喫緊の課題として取り組まれるでしょう。

私は不測の事態が起こり得る、との前提で提案したいと思います。戦争、エネルギー、水資源等の枯渇・争奪戦、大災害の頻発、といった人類を揺るがす事態です。もちろんそうならないように世界のリーダーたちが努力を続けているのですが、だからといって、起こらない保証はありません。その時、自由なグローバル経済体制は崩壊します。まさに不測の事態ですから、何がどうなるかは分かりません。その際に備えて、私は、日本列島に籠城する戦術もあり得ると考えます。長期籠城を可能にする手、その一つが、今のうちから未利用地を資源産出の場に転換を進めることだろうと考えます。

ここで着目するのは、歴大な耕作放棄地、及び管理地不十分な山林、その他、都市公園や街路の緑地帯などです。この地に、有用な植物を今のうちから植樹することです。労働力不足のこともあって、できるだけ手がかからない植物がいいでしょう。

「今年の明りは、去年の太陽だった」。これは江戸時代、前の年に、太陽の恵みで実ったハゼの実から作った蠟燭のことを指しています。ハゼは、明りを国内自給できる貴重な資源になるでしょう。といった具合で、どのような果樹がいいかは地域ごとに考えればいいと思います。住宅建築用の木材は、今は自給する能力は十分ですから、間伐を含めて混合林化を推進しながら木材自給率を高めるべきでしょう。

## 参考

我が国の農地面積は、609万 ha（昭和36年）から461万 ha（平成21年）へと減少し、耕作放棄地の解消及び発生防止が喫緊の課題となっています。食料自給率は、食料消費パターンの変化も相まって、73%（昭和40年度）から41%（平成20年度）にまで減少しており、これは主要先進国中で最も低い水準です。耕作放棄地は、耕作をやめて数年経てば、農地の原形を失うほどに荒れ、病虫害・鳥獣被害の発生、雑草の繁茂、用排水施設の管理への支障等や、土砂やゴミの無断投棄、火災発生の原因となる等が考えられます。周辺の営農・生活環境を悪化させるだけでなく、下流地域の国土保全機能の低下をも招くことが考えられます。

すでにここまで国土の荒廃は進んでいます。首都一極集中策は、今回のオリンピックの決定でもさらに推進されようとしています。地方が充実しない国土像は危険極まりないとかねてから思っています。

